

## 令和5年度第2回おうめ観光戦略策定懇談会会議録（概要）

- 1 日時 令和5年10月23日（月）午前10時00分～11時50分
- 2 場所 青梅市役所3階教育委員会会議室
- 3 出席委員  
千葉委員（会長） 小澤委員（副会長）、靱矢委員、本橋（大）委員、  
嶋田委員、北村委員、村上委員、本橋（あ）委員、横澤委員、小島委員、  
金井委員、越前委員
- 4 欠席委員0名
- 5 傍聴2名
- 6 議題

- (1) 第1回おうめ観光戦略策定懇談会結果報告について
- (2) 前回委員指摘事項に対する追加報告について
- (3) おうめ観光戦略策定に関する協議テーマ・方向性について
- (4) 意見交換テーマ

「4つの基本戦略の中で、具体的に市が取り組むこと、民間が取り組むこと、市民が取り組むこと」

（配布資料）

- 資料1-1 令和5年度第1回おうめ観光戦略策定懇談会会議録（概要）  
資料1-2 第1回懇談会意見まとめ  
資料2-1 WEBアンケートの来訪経験別、居住地の結果について  
資料2-2 御岳インフォメーションセンター 外国人来所者数の推移  
資料3 おうめ観光戦略（2024-2028）の骨子（案）

発言者	会議のてん末・概要
会長	(開会) 1 あいさつ 会長あいさつ
事務局	2 議題 (1) 第1回おうめ観光戦略策定懇談会結果報告について (第1回おうめ観光戦略策定懇談会結果報告について、資料1-1、1-2を用いて説明)
会長	意見等、ご発言をお願いします。 <意見・発言なし> それでは、次の議事に進めます。
事務局	(2) 前回委員指摘事項に対する追加報告について (前回委員指摘事項に対する追加報告について、資料2-1、2-2を用いて説明)
会長	質問があればお願いします。
委員	伺った23区及び多摩地域についてですが、他地域に比べて訪問者が多いと思います。23区内外を問わず、どのような人々を増やす方向に進めたいか、また、外国人の訪問者増加に関して、特に強化したい部分や戦略があるかについてご意見を伺いたいです。
事務局	現在、青梅線沿線および中央線沿線における誘客を中心に、進めているところです。

	<p>これまで中央線沿線の都心部のファミリー層や若年層を主なターゲットとしてPRを行ってきましたが、現状では幅広い層からの来訪が確認されています。移動の利便性などを考慮し、今後も中央線沿線を主要なターゲットエリアとして鉄道沿線の活動を強化する方針です。</p>
委員	<p>現在、訪問者の分布において50キロメートルを境に訪れたことのある人とない人の割合が逆転している状況ですが、50キロメートルという距離は青梅市だけでなく、他の市町村にとってもかなりの距離的なハードルであると思います。このハードルを越えて、より広範囲にわたり訪問者を増やすために、どのようにするかが重要だと思いますが、この点についてご意見があれば伺いたいです。</p>
事務局	<p>事務局では今回、初めて50キロメートルを境にした訪問者分析を行いました。これまでにない、この分析を通じて、訪問者が主に近隣地域から来ているという傾向が把握できました。近隣地域からのプロモーションと、50キロメートルを超える距離からの訪問者に対するプロモーションの方法は、今後変更していく必要があると考えております。この結果は、今後の戦略策定に役立つと考えております。</p>
委員	<p>追加調査を実施していただき、ありがとうございます。  二点、意見を述べさせていただきます。  初めに、WEBアンケート調査については、非常に興味深く見ております。青梅市は首都圏の市街地に隣接しているため、日常的な来訪者と観光客の区別が困難であると感じています。アンケートの際に、この区別について行われたか、または行われていないかをお伺いしたいと思います。次に、観光</p>

	<p>戦略を策定するにあたり、来訪者と観光客を明確に定義する必要があると感じております。これは重要な論点であり、今後のストーリー作りにおいて重要です。この点についてもご意見をお聞きしたいと思っております。</p> <p>もう一点、外国人来訪者数の推移に関するデータ提供をいただき、これも大変興味深いです。</p> <p>私が運営に関わる山梨県小菅村のホテルでは、最近特に外国人の顧客が増加しており、10月には宿泊者の割合で50%を超えることがありました。来訪者の出身地を確認しており、9月まではヨーロッパからの来訪者が多かったのですが、10月に入り、オーストラリアやアメリカからの来訪者が増え、またアジア地域ではシンガポールや台湾が目立ちました。資料と一致するところがあり、これは非常に理解しやすかったです。ただ、観光行動に地域差が、かなりあると感じています。そのため、インバウンド対応においては、地域別に異なる特性を考慮した戦略が必要であると考えております。これは質問というよりは意見ですが、欧米からの来訪者は通常2週間から3週間程度滞在し、アジアからの来訪者は約1週間の滞在と、滞在期間にも違いがあります。</p>
事務局	<p>委員からの質問に対しまして、WEBアンケートは「観光WEBアンケート調査」と題して実施しておりますが、この中での来訪目的には、私的な理由で青梅市を訪れる方々も含まれております。たとえば、知人訪問や実家への帰省などの回答が含まれておりますので、観光地を訪れた方以外の目的での訪問者も含めております。</p> <p>観光客の定義については、観光庁の分類では、ビジネスなどの移動も含むと理解しております。初回の会議でお示した人流データは、一般的な移動を示しており、訪問目的は訪</p>

	<p>問した場所で推測するしかないという状況です。</p> <p>通常の移動と観光の移動を明確に区分することは、他の統計調査の定義を踏まえても、難しい課題であると理解しています。今後は、誘客目的や地域別の分析を考慮し、定義を計画の中でも明確化していければと考えております。</p>
委員	<p>アンケート結果において、東京 23 区に来訪経験があるのは 47.6% という結果は、50% 以上の来訪可能性を示唆しています。これはプロモーション戦略を練る上で、非常に有効なターゲティングの指標だと感じます。</p> <p>23 区の人口が 1000 万人であれば、約 500 万人が未来訪者である可能性があるということですから。</p> <p>また、インフォメーションセンターにおける令和元年の外国人聞き取り調査についてですが、アジア太平洋地域を一括りにするのではなく、東アジア、東南アジアなどと細分化して分析できればより良いと感じます。可能であれば国別にまで分析を行うことが最も理想的ですが、少なくとも地域別に分類することで、よりわかりやすくなると感じました。</p>
事務局	<p>詳細なデータが膨大であるため、概要をまとめて報告いたします。</p> <p>欧米オセアニアからの回答数は 1,533 件で、その中で最も多いのはアメリカで 386 件（全体の 16%）、次いでオーストラリアが 201 件（8%）です。残りの回答はイギリスが 159 件（7%）、フランスが 176 件（7%）、ドイツが 156 件（6%）となっており、他の国々は 1% 以下の回答であり、ほぼ同じ傾向です。</p> <p>アジア太平洋中東地域に関しては、突出した国は見られず、</p>

	<p>最も多い回答はタイとインドで、それぞれ 136 件と 137 件（共に 6%）です。中国が 116 件（5%）で続いています。</p> <p>聞き取り調査の結果、インドとタイからの回答者数が同数であり、アジア地域からの多様な回答が得られていることが分かりました。ただし、新型コロナウイルスの影響により、最近では回答者に聞き取りが難しいため、新たなデータはとれていないとのことでした。</p>
<p>委員</p>	<p>補足いたしますが、これは御岳山のインフォメーションセンターに訪れた方々のみの結果です。従って、これは御岳山あるいは青梅市全体を訪れた全ての人々のデータではありません。インフォメーションセンターを利用し、質問されたり情報を求めたりした訪問者の出身地に関する調査結果であり、あくまで参考情報としてご理解ください。インドからの訪問者が多いのか、または全体的な訪問者数に占める割合がどうかは、このデータから判断することは難しいと思います。したがって、この情報はインフォメーションセンターに訪れた方々に限定されるため、全体の外国人と日本人の訪問者の割合については、正確な傾向は、わかりません。</p> <p>ただ、私が感じ限りでは、東南アジアからの訪問者は増加傾向にある一方で、新型コロナウイルスの影響を受けている中国からの訪問者数は以前ほど多くありませんが、国交が正常化すれば再び増加すると思っております。</p> <p>あくまでインフォメーションセンターを訪れた方々に関するものだという点をご考慮の上、参考程度にお受け取りいただければと思います。</p>

事務局	<p>第1回の懇談会でも議論がありましたが、外国人訪問者数の正確な把握は非常に困難です。事務局としても、現在手元にある数値を参考にしております。委員からの民宿や民泊の経験を踏まえた異なる傾向についての報告もありましたので、現場においては異なる動向があることは認識しており、今後も細かくデータを分析し、注意深く見守る必要があると考えております。</p>
委員	<p>御岳インフォメーションセンターで相談を受けたり情報を求めたりした方々は、ほとんどが御岳山を訪れる方々です。このため、先ほどの議論とは若干異なるかもしれません。</p>
委員	<p>御岳ビジターセンターで、統計データの取得やアンケート調査に協力をいただければ、より充実したデータが収集できると思います。公的施設であるため、協力してもらえらるかもしれません。</p>
委員	<p>実際、ビジターセンターでは、外国人訪問者をあまり見かけないです。主に日本人登山者が多く、外国人訪問者はビジターセンターに立ち寄らずに通り返ることが多いです。明確な目的を持って訪れる方が多いからかもしれません。アンケート調査などは、御岳登山鉄道に、人的余裕があれば、よりよい統計ができる可能性はありますが、今はそのようなリソースが不足しているために困難だと思います。</p>
委員	<p>ビジターセンターへの外国人訪問者の入りにくさがあるかもしれません。多言語の案内表示はされていますが、実際には外国人の姿は少ない聞きます。多くの訪問者は、事前にGoogleなどで情報を収集した上で訪れているようです。私</p>

	<p>自身も周辺を観察しておりますが、外国人訪問者は多くありません。話を伺うと、御岳山登山や小沢酒造訪問などの明確な目的を持つ人が多いです。統計を取る場合、御岳山訪問が主目的であること、またはそれとセットでの訪問が多いという点を考える必要があります。</p> <p>むしろ、訪問者が日本についての情報をどこから得ているか、特に青梅を選ぶ理由についての調査が重要だと思います。情報源を特定することができれば、そのチャンネルを通じてのプロモーションや情報発信を強化することで、外国人訪問者を増やせるかもしれません。</p>
会長	<p>ありがとうございます。非常に具体的な話になってきました。お時間ありましたらまた皆さんからご発言いただくということで、一旦議事を進めます。</p>
事務局	<p>(3) おうめ観光戦略策定に関する協議テーマ・方向性について</p> <p>(おうめ観光戦略策定に関する協議テーマ・方向性について、資料3を用いて説明)</p>
会長	<p>質問があればお願いします。</p>
委員	<p>観光事業に直接関わっているわけではないですが、観光事業に従事する方々や市役所にお勤めの方々の観点から、観光の取り組みに対する考え方を伺いたいです。具体的には、観光事業の発展と市民の生活との間のバランス、たとえば利便性の向上やマナー問題など、それらの関係についての認識をお聞きしたいです。市民として、訪れる人々を迎えることに対しては肯定的です。生活に無理がない上で、迎え入</p>



	<p>れることができればいいと思っています。</p> <p>しかし、事業としての観光を推進する場合は、個人の実感とは異なる次元で進行することが多いと考えています。市民生活と事業の間で、どのような調和が必要か、また観光の方向性をどのように決定すべきかについて、意見があれば伺いたいと思います。</p>
会長	<p>現在議論されているのは、具体的な事業計画ではなく、将来のビジョンに関するものです。5年間の計画が成功し、目標を達成すると、オーバーツーリズムや市民生活への影響など新たな問題が生じる可能性も考慮する必要があると思います。しかし、この委員会の目的は、事業者と市民の皆様と共に、5年後に向けた望ましい未来の姿を定めていくことにあると理解しています。</p>
事務局	<p>これまでも観光事業の推進に関わってきましたが、最近では持続可能な観光を観光戦略の柱の一つに据え、市民生活とのバランスを考慮する必要性を感じているところです。委員から指摘された文化財の保護も含め、多角的な観点が重要だと考えております。</p> <p>公共交通の基本計画を例に挙げると、地域の公共交通の維持についても観光客の利用増加を含めて、検討が進んでいます。観光基本戦略では、観光の発展と多くの訪問者の受け入れを目指しつつ、例えば公共交通の利用促進など、観光地の活用と公共交通との相乗効果を図る政策を展開することができればいいと考えております。</p> <p>また、バーベキュー推進に伴うゴミ問題などにおいては、マナー向上の啓発や市内のゴミ担当部署との連携を強化するなど、協調して進めていければと考えております。</p>

委員	<p>ただいまの説明を受けて理解が深まりました。続く議論において、観光事業に携わる方々から市民生活への期待や、市民との交流に関する観点があれば、その点についても詳しく伺いたいと思います。</p>
委員	<p>私も、事業者であり、一市民でもあるので、観光に関連する様々な問題点、特に観光弊害に関して感じるところがあります。例えば鎌倉のような地域では、インバウンドの増加により公共交通が圧迫され、市民の日常生活に影響が出ていると聞きます。青梅ではまだそのレベルには至っていないと思いますが、私自身も民泊を運営しているため、近隣住民の不安や懸念を十分理解しています。不特定多数の宿泊客が住宅街に泊まることに対する不安や疑念、例えば犯罪のリスクなど、様々な声があります。</p> <p>私の事業でも、地域に根ざし、地域密着型になるためには、これらのバランスを取ることが非常に重要だと考えています。この委員会で、事業者としてだけでなく、市民としての視点も持ち合わせていますので、そうした両面からの意見交換ができ、バランスのとれた策定が行えればと考えています。</p>
委員	<p>観光地における事業者と市民の間の意見のギャップは明らかで、観光の増加が近隣住民に迷惑を及ぼすことがあります。例えば、多摩川でのゴミ問題やバーベキュー、駐車場問題などが挙げられます。青梅は観光地としての発展を目指していますが、住民の意見を取り入れながら両立させる方法を探ることが大事だと思います。</p> <p>御岳山のような事業者が多い地域では、市民的な意見は少なく、観光推進する意見が強いですが、麓の地域では住民の</p>

	<p>減少や過疎化が問題となっています。例えば、青梅線の運行本数増加について、市民の利便性という観点から訴えたいですが、常時の利用者数が減少しているため、なかなか難しいところです。観光客の増加による交通機関の乗客増加が、運行本数増加につながればいいと思います。そういったことで地域が活性化すれば、市民が地域に参加して活気あるまちになると思います。</p> <p>観光事業の推進だけでなく、市民生活との両立を図ること、また細やかな発想で取り組むことが重要な課題だと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>オーバーツーリズムは現在重要な問題となっていますが、特に沢井や御岳山周辺、奥多摩では、実際には二、三十年前の方がより深刻な状況でした。</p> <p>当時は、観光客による大渋滞が頻繁に起こり、特に青梅方面への帰路が非常に困難でした。観光バスが多く訪れ、駐車場や交通機関が満員で、市民の日常生活にも影響を及ぼしていました。特に地域住民が救急車など緊急時に移動するのが困難な場面もありました。</p> <p>最近はそのような状況は減少していますが、それでも、オーバーツーリズムによる影響は今後懸念されます。</p> <p>観光客によるタクシーの利用増加が、地域住民の交通機関利用に影響を及ぼすこともあります。これを解消するために、デマンド型交通の導入ができればいいと思っています。</p> <p>これは市民と観光客双方が利用できる方法で、特に東部地域には必要だと考えています。このような新しい交通の実証実験を実施することで、地域の回遊性を向上させ、観光客の滞留時間の延長や宿泊にも繋がるのが期待されます。</p> <p>この方向性について今後の検討をお願いします。</p>

<p>委員</p>	<p>青梅市の東部地区についてのお話をさせていただきます。</p> <p>この地区は主に岩蔵温泉と塩船観音寺で知られており、岩蔵温泉に関しては、宿泊の受け入れ能力が限られているため、大量の観光客の受け入れは難しい状況です。</p> <p>この地域の自然や里山風景を売りにする方向で、選ばれる観光地としての発展していくことを目指しています。また文化財の保護に貢献できるような仕組みの構築も検討しています。</p> <p>一方で、塩船観音寺では、ツツジの見頃が温暖化の影響で4月に変化しており、収益に影響が出ているようです。従来の日本人観光客に加えて、新しいコンテンツの創造やインバウンド観光の強化が必要だと感じています。御岳山や東部地区全体の連携を図ることで、地域全体の発展につなげていければと考えています。</p>
<p>委員</p>	<p>観光の最大の目標は経済の活性化であると考えます。ただ、消費を増やすだけでなく、オーバーツーリズムによる問題を避けるためにも、回遊性を高める仕組みや、滞在期間の延長、地域での消費促進などを図る必要があります。アクティビティ体験の提供など、消費を喚起する施策が重要です。これらは事業者や市民にも還元される仕組みになっているべきです。</p> <p>地域住民が自分たちの町に誇りを持てるようになることは、シビックプライドの醸成にも繋がります。観光は日本全国の地域に共通する重要な課題であり、サステナブルツーリズムや責任ある旅行者の育成は、これからの基本戦略の重要な柱です。青梅市の現在の基本戦略でもこれらの点が考慮されていると感じます。</p>

<p>委員</p>	<p>青梅線に関しての補足をさせていただきます。青梅線の利用者数は、一時期に比べて10%から20%に減少しています。海外や首都圏からの情報発信を強化し、観光客の増加に努めていますが、オーバーツーリズムや地域住民の受容性の問題もあります。地域住民は主に自動車を利用しており、青梅線の利用者増加は今後も課題です。</p> <p>私たちは、青梅線への愛着を持っていただくための取り組みを続けており、例えば沿線の小学校と連携して車内に小学生の絵を展示するなどの活動を行っています。観光客だけでなく、地域住民にも青梅線を利用してもらい、鉄道を通じた地域の魅力を高める取り組みを進めていきたいと考えています。乗車率を高めるためにも、地域住民との連携を重視しています。</p>
<p>委員</p>	<p>青梅市の観光戦略に関して感じた点を述べます。特に、骨子（案）にある地域資源の項目に目を引かれました。青梅市は自然豊かなとしてよく紹介されますが、この地域の美しい山や溪谷は御岳山や沢井など特定の場所で観光化されています。</p> <p>青梅市の特徴として、標高差が1000メートルあり、これが豊かな自然環境を生み出していることを強調したいと思います。多摩川を挟んだ青梅丘陵や長淵丘陵には、豊かな自然が広がっており、これらのエリアを観光資源として活用することが可能です。羽村や福生と比べても、青梅市には見られる植物の種類や絶滅危惧種が多く存在します。</p> <p>さらに、第4章で言及されているインバウンド対応やIT化などの取り組みは重要ですが、地域の自然や一次産業、森林や農業との連携を強化することも大切です。これによって、地域還元や持続可能な観光の実現に寄与できると思いま</p>

	<p>す。青梅市の豊かな自然を感じる事ができる場所をさらに多くの人に案内し、それを通じて地域全体の観光資源としての魅力を高めることができると考えます。</p>
委員	<p>次の意見交換で基本戦略について話し合うことになっていきますが、私は第3章で述べられている将来像と目指すべき地域の姿が特に重要だと感じています。青梅市の魅力に関しては、何をもって青梅市の魅力とするかを明確にし、共通の理解を持つことが大切です。青梅市の魅力と言えば、自然や環境が一般的に思い浮かべられがちですが、それに加えて人々や食文化も魅力の一つと捉えることができます。</p> <p>青梅市の魅力については、さまざまな視点が存在するため、これらを統合し、みんなが共有できる理解を形成することが重要です。青梅市の魅力を明確にし、共通の認識を築くことが、今後の観光戦略の成功に繋がると考えます。</p>
会長	<p>おうめ観光戦略5ヶ年計画の骨子案について、意見集約を行いたいと思います。この段階では、骨子案の内容に何か足りない点や追加すべき項目についてのご意見ありますでしょうか。皆様には、このA3サイズの骨子案をご覧ください、今後の詳細な計画についてのご意見をお聞かせいただきたいと思います。現時点で骨子案はほとんど網羅されているとは思いますが、今後青梅市独自の特色を構築していく上で、表現の変更や新たな提案があればお願いします。5ヶ年計画の具体化に向けて、皆様のご意見を頂戴したいと思います。</p>
委員	<p>戦略の構成ではなく、言葉遣いとその表現に関するものです。第3章の「将来像」と「目指す地域の姿」に「持続可能</p>

	<p>な観光地」と「サステナブルツーリズム」などの用語が含まれていますが、これらはより成長を目指す重要な要素だと思います。しかし、これらの概念は第4章の「基本戦略1の持続可能な観光地づくりの推進」の下位概念として扱われるべきだと私は感じています。これらは全体を包括する概念として位置付けられるべきで、より具体的な用語や言葉遣いが望ましいと考えます。</p> <p>例えば、「持続可能な観光地」としての具体的な仕組み作りや基準設定など、より詳細な表現を取り入れることが適切だと思います。サステナブルツーリズムの概念をより明確にすることで、戦略の理解や取組が進めやすくなると思います。</p>
<p>会長</p>	<p>「持続可能な観光地づくりの推進」が大タイトルに掲げるべきキーワードだろうというご意見ですね。1階層上の言葉かなと思ったっていうところですね。ありがとうございます。貴重なご意見です。他にございますでしょうか。</p>
<p>委員</p>	<p>委員の意見に補足する形で、“持続可能”という用語の具体性について述べたいと思います。現在、この言葉は、かなり抽象的で漠然としており、市民や地域にとって「持続可能な観光」とは具体的にどのようなものなのかが明確ではありません。市が「持続可能な観光地」としてどのような具体的な施策を講じるのか、その詳細がより具体的に言語化されることが望ましいと感じます。</p> <p>この点については、他の委員の意見も聞きたいと思います。具体的な持続可能な観光の取り組みについての明確な説明や方針が骨子案に反映されることで、市民や関係者がより理解しやすく、実効性のある計画になると思います。</p>

<p>委員</p>	<p>青梅市の観光に関して、サステナブルツーリズムやエコツーリズムといった概念が非常に重要な要素となり得ると感じています。これらは青梅市の観光を他の地域と差別化するための強いワードになると思います。</p> <p>既に御岳地域でのリバーアクティビティとリバークリーンを組み合わせた取り組み、さらに農業体験などが行われていますが、青梅市独自の特色をもっと強調する必要があります。例えば、青梅市では特定の農産物が特に強いわけではないものの、小規模で多品目の野菜栽培や原木しいたけ栽培など、多様性豊かな農業が展開されています。このような農業の多様性をサステナブルツーリズムの枠組みの中でアピールすることで、他地域との差別化が図れるのではないかと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>委員が提起した観点と連動して、特に交通の問題に焦点を当てたいと思います。観光客が増加することで、市民の生活の足が充実するようなポジティブなサイクルを生み出すことができれば、それはWin-Winの関係となります。観光が盛り上がることによって、市民生活が損なわれるのではなく、改善される事例ができればいいと思います。</p> <p>特に交通に関する問題は以前の議論でも多く取り上げられましたが、観光の推進が市民生活に及ぼすプラスの影響、例えば公共交通の充実などを計画に盛り込み、その成果や利点をわかりやすくすることで、より説得力のある戦略になると思います。観光により市民生活が向上することを示すことで、地域全体の観光推進の機運を高めることができます。</p>



<p>会長</p>	<p>骨子案の構成に関して特に反論や新たな意見がない場合、先ほど挙げられた点、特に市民目線での観光の利点に関する議論を、括弧 4 番の意見交換で詳しく検討することにいたしましょう。</p> <p>委員長として、私自身の経験からも意見を共有させていただきます。以前、神奈川県観光審議員として活動していた際、地域誘客のための様々な取り組みを経験しました。特に、横浜や鎌倉への一極集中を避けるため、さきに話のあった 50 キロの壁のように、移動しやすい方向にある他地域への観光誘導に注力したりしていました。また、群馬県の片品村での座長の経験から、30 年前は確かにハイキングブームの影響で尾瀬ヶ原もかなりの混雑状況がありました。</p>
<p>委員</p>	<p>最近、青梅市の川辺の環境改善についての努力が顕著です。かつてはゴミが多く問題となっていました。現在は清掃活動が効果を発揮しているようです。特に、10 月 1 日に御岳溪谷で行われた水陸両面の清掃大会では、リバースポーツを楽しみながら川を清掃するという取り組みが行われました。ゴムボートを使用して水面から川底のゴミを集めるなど、目に見えない場所の清掃も行われています。</p> <p>また、岩蔵温泉へのアクセスに関する課題も指摘されました。ハイキング後の公共交通の利用が難しい状況にあり、これは観光客だけでなく、地域住民にとっても不便をもたらしています。このような問題に対して、バス会社にも改善の要望を出す必要があると感じています。</p> <p>観光と市民生活の両方が Win-Win の関係になるような政策の必要性を感じており、観光の推進だけでなく、地域住民の生活の質を向上させる取り組みも重要だと思います。</p>

<p>会長</p>	<p>今日いただいた貴重なご意見に感謝申し上げます。この骨子案の大枠が決まり次第、より具体的な議論に進むことを期待しています。尾瀬に関する議論においても、林業や農業関係者、高校生を含む多様な意見が交わされました。これらの多角的な視点は、青梅市の観光戦略においても重要だと思います。</p> <p>まだ意見を述べられていない委員からのご意見をお聞きしたいと思います。委員、何かご意見がございましたら、ぜひお寄せください。</p>
<p>委員</p>	<p>やはり市民ファーストだと思います。地域の人々に理解を得ることが非常に重要で、観光振興の取り組みで何か問題が発生することは避けたいと考えています。</p> <p>私は御岳の出身ですが、駅前に以前はコンビニエンスストアがありました。御嶽地区の住民は買い物に行くのが大変なので、コンビニエンスストアは非常に便利でしたが、残念ながら閉店しました。観光客もコンビニエンスストアでお弁当を購入し、バスに乗ることが多かったのですが、それができなくなりましたし、地元の高齢者なども困ってしまいました。そのため、例えば、観光客が多く訪れ、新しい店舗ができることは地域の住民にとっても助かると思います。</p> <p>あと私は普段古文書を読むことが多く、漢字の世界に慣れていますが、カタカナの用語が難しいこともあります。骨子案にある用語集とは、具体的に何を指すのでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>先ほど委員が述べた通り、例えばサステナブルツーリズムといっても、一般の方には慣れない用語で理解が難しいことがあります。そのため、わかりやすくするため、具体的な説明を盛り込みたいと考えています。</p>

委員	ぜひ、用語集を充実させてもらいたいです。
事務局	市民の方にも、わかりやすい計画にしたいと考えており、用語については、丁寧にわかりやすく説明を入れたいと考えております。
会長	<p>(4) 意見交換テーマ</p> <p>「4つの基本戦略の中で、具体的に市が取り組むこと、民間が取り組むこと、市民が取り組むこと」</p> <p>括弧4番の方です。こちらはA3用紙で横書きの骨子案です。この骨子案には、市が取り組むべき基本戦略が1から4まで示されています。また、民間の皆様におかれましても、取り組むべき課題が多々あるかと思えます。</p> <p>最初に、基本戦略1である「持続可能な観光地作りの推進」について、タイトルをもう少し大きな目標にするべきかどうかについての意見がありました。皆様から基本戦略1から4までに関するご意見をお伺いしたいと考えております。具体的なトピックとして、インバウンド観光、市民と事業者の協力によるプロモーション展開、観光資源の付加価値向上に関するご意見をいただければと思います。</p>
委員	さっき、委員からお話があった持続可能な観光地の推進の項目立てが、特に将来像やビジョンに掲載せず、基本戦略に記載されている意図についてお聞きしたいと思います。
事務局	基本戦略の項目については、市が策定した総合長期計画に採るべき政策の方向性として、これら4つの記載をすでに

	<p>しており、それと対応させた結果です。委員のご指摘通り、持続可能な観光地の推進という言葉には、幅広い概念を含むものだと事務局も承知しています。</p> <p>今後の計画の記載の中で、この持続可能な観光地づくりについて、もっと大局的なビジョンに結びつける余地があるかどうかを検討したいと考えています。</p>
会長	<p>第7次総合長期計画との紐付けがあったということです。</p> <p>今まで皆さんのキーワードを追っておりましたが、アドベンチャーという言葉が非常に青梅は向いているなど感じましたが、今までアドベンチャーという言葉は出てきておりません。委員なにかございましたらご意見ください。</p>
委員	<p>青梅線沿線には「アドベンチャーライン」という愛称がつけられており、この名称は観光客だけでなく、首都圏の方々にもエリアのイメージを伝えるために5年前に導入されました。この地域は非常に自然に恵まれ、アドベンチャー体験が楽しめる場所として知られており、当時のこの愛称はエリアの魅力の一部となっています。</p>
会長	<p>他に何かございますでしょうか。</p>
委員	<p>質問ですが、基本戦略1の中にある「地域の環境や文化の保護と活用」という項目について、文化の保護と活用に関して、具体的にどのような文化を考えているのでしょうか。お伺いできますでしょうか。</p>
会長	<p>事務局の方からお願いいたします。</p>

事務局	<p>こちらの「地域の環境や文化の保護と活用」というテーマについて、観光庁が策定した日本版持続可能な観光ガイドラインにも触れられています。文化の定義に関しては、一般的な文化財として知られているもの、例えば歴史的な建造物や神社などがあります。また、地域の食文化や伝統的な芸能など、無形文化財に指定されたものも含まれます。</p> <p>また、文化財として指定されていないが、地域に深く根付いており、生活の一部として捉えられている文化も存在します。このような伝統芸術や民芸も、文化の一環として考えおり、文化の範囲は広範で多様であると認識しております。</p>
委員	<p>例えば、現在新しい市民ホールの建設について議論が進行中ですが、文化の側面において、関連するさまざまな要素が絡んでくると考えます。このような状況で、文化の発展を促進し、連携して進めるための具体的な計画は何かありますでしょうか。</p>
事務局	<p>文化をどのように活用するか、観光分野や他分野と連携させるかは、まさにこの後、具体的に進める中で検討していくことかと考えています。</p>
会長	<p>骨子案では、文化という大きい言葉で有形無形を含めた意味ということですね。</p>
委員	<p>「持続可能」などという言葉自体が、具体的な内容が示されないまま使われていますが、持続可能性は多くの分野に関連し、文化、山、畑など、地域全体にわたって観光を通じて発展すべきものです。これにより、観光客が地域の農業や山林、清流を体験することを通じて、これらの資源を保護し、</p>

	<p>維持する必要があります。文化財も同様で、地域の伝統芸能などは過疎化の影響を受けている場合もあります。</p> <p>したがって、これらの文化を継続させるために、観光客向けに提供し、新たな参加者を増やすことが重要だと思います。地域を豊かにし、自然と文化を保護することが必要で、これにより、地域の発展を促進し、資源を守りながら観光と結びつけていくことができればよいと考えています。</p>
委員	<p>観光を一つのきっかけに一緒に扱っていこうという。</p>
委員	<p>その通りです。伝統芸能の維持には、場所や披露の機会が必要です。たとえば、日本雅楽会という東京の団体では、雅楽を専門に習っている一般の人たちがいて、年に数回、大きな劇場で講演会を開催しているそうです。しかし、もっと広く伝統文化を披露できる場所が必要とされています。偶然にも、日本雅楽会の会員が多く御岳山に住んでおり、御岳山の雅楽の披露の話が持ち上がりました。最近、天空紅葉まつりのオープニングで雅楽を演奏しましたが、習っていることを披露する場が必要なのです。</p> <p>したがって、御岳山などの地域も、伝統や文化を維持するために、互いに協力し、場を提供することができます。これは地域の伝統や文化を保存する手段の一つであると考えます。</p>
委員	<p>地域のお祭りでは、例えば獅子舞などが行われますが、これに参加するのは主に地元の住民です。しかし、年齢が上がるにつれて、若い世代が後継者として参加しないため、お祭りが途切れてしまうことが多いのです。このような有形文化財を末永く保存し、後世に伝えることは重要です。御岳山に</p>

	<p>は国宝が2つあり、塩船観音寺には重要文化財があります。これらの有形文化財は保存しやすい一方で、無形文化財を伝えることは難しいと思います。</p> <p>しかし、観光と結びつけることで、観光客もお祭りに参加し、地元の人々も楽しむ機会が増えます。観光客が地元で消費し、交流が広がれば、若い世代も獅子舞などの伝統行事に参加したいと思うでしょう。地域のお祭りは地域だけでなく、広く知られるようになり、後継者が増え、継続していける可能性があります。したがって、地域と観光を結びつけ、お互いの発展を促進する方向に進むことは、過疎化とともにお祭りや地域文化の衰退を防ぐ手段として非常に有効だと思います。</p>
委員	<p>伝統文化の継承の問題は自治会の問題と似ている側面があります。自治会においても、若い世代の参加が難しく、新たに移住した人々もなかなか加わらず、高齢化が進んでいます。お祭りなども自治会が主催することが多いため、この問題は複合的なものといえます。</p> <p>今回の提案は5年間の計画です。具体的な内容はこれから詳細に検討される予定ですが、重要なポイントがあります。行政の役割として、モニタリングと評価の実施です。観光客だけでなく、市民の視点も同時にモニタリングし、継続的に評価を行っていくことです。この検証の場として、第5章において検証を明示的に行い、改善や事業を進めるための場を設けることが大切です。</p>
事務局	<p>横澤委員の指摘通り、今後の進行方法が非常に重要です。これまで観光政策において、数値目標を設定し、定期的に発表することはあまり行っていませんでした。今後、人流分析の</p>

	<p>ツールを活用し、市民にもわかりやすく提示できるような方法を検討しています。毎月の発表は難しいと考えていますが、半期に1回など、青梅の観光政策の進捗状況を公式にアナウンスできる体制を整えたいと考えています。</p> <p>また、観光は行政単独では、収益を上げたり人を呼び込んだりすることは難しい側面があります。そのため、市民や事業者の協力が不可欠だと考えています。</p>
会長	<p>委員の皆様は、事業者として最前線で活躍されてる方が多く、今後の参考になるかと思いますので、沿線まるごとホテルについてご説明をお願いします。</p>
委員	<p>計画や戦略を策定するだけでなく、誰がそれを実行するのかが非常に重要です。また、計画書に役割分担などを表形式で記載するだけではなく、地域の住民や事業者が自発的に参加し、ムーブメントを形成し、盛り上げていく必要があります。協議会での議論だけでなく、市民全体で「青梅のサステナブルツーリズム」の本質について議論し、サステナブルツーリズムについて学び、視察や見学に参加し、共に取り組むムーブメントを作る必要があります。これは市の政策だけでなく、市民、事業者、行政全体で推進する運動の一環として位置づけられるべきでしょう。</p> <p>お話いただきました、JR東日本と共同出資で設立した「沿線まるごと株式会社」が「ジャパンツーリズムアワード」で最高賞を受賞したことは大変名誉なことです。この受賞は、ホテルや宿泊事業だけでなく、沿線全体を盛り上げる運動が既に始まっていることを示しており、サステナブルツーリズムにおいても、市民、事業者、行政が協力し、共に取り組む姿勢が重要です。</p>



	<p>このように、観光客数だけでなく、地域全体での協力と共感が重要であり、それを意識してサステナブルツーリズムを推進していくことが重要だと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>私は長い間観光業に従事しており、観光は以前は数に重点が置かれ、訪問者数が成功の尺度とされていました。例えば、去年と比べて今年は1000人多いか少ないかで評価され、観光が成功したかどうか判断されていました。しかし、現在はそれだけでは足りません。訪問者数は、もはや主要な指標ではなく、むしろ減少する可能性さえあるでしょう。</p> <p>観光のトレンドは個人旅行へと移行しています。以前は観光バスでの団体旅行が一般的でしたが、現在ではそれほど多くありません。したがって、青梅を訪れた個人旅行者に、地域を楽しんでもらう方法が求められています。青梅の魅力を再評価し、旅行者が楽しむための方法が問われています。</p> <p>以前の観光旅行は名所巡りが中心で、観光地は何もしないで待つだけでよかった時代から変わりました。今は、訪問者が楽しむことが重要視されています。御岳の周辺ではリバースポーツやハイキング、登山が盛んであり、観光協会では地元の食材を使用した料理開発を行い、訪問者を楽ませるための様々な取り組みを行っています。</p> <p>訪問者は体験を求め、旅行中に楽しむことを望んでるようになります。これらに対応するためには、やはり宿泊施設が重要です。宿泊施設がないと、単純な日帰り旅行になってしまいます。したがって、観光の中心は宿泊施設であり、多くの訪問者が滞在時間を長くし、地域内での移動を促進することが求められています。</p> <p>私も最近、御岳山の天空もみじまつりに参加し、宿泊しない</p>

	<p>とわからない魅力を発見しました。夜景や星空の美しさに感銘を受けました。紅葉の季節も御岳山が素晴らしい場所だと思います。訪問者に長期滞在できる魅力的な旅行を提供することが重要で、特に数量ではなく、質がより重視されると思います。</p>
<p>委員</p>	<p>色々なご意見を聞いて、誰がこれらを実施するかという問題は存在します。特に、今年の青梅大祭では、私の町内、本町で山車を出しました。5月の2日と3日に開催され、来場者が非常に多かったことが印象的でした。本町では、子供会と自治会が山車を引く主体ですが、見物客は多いのですが、実際に山車を引く人が少ないという課題があります。この課題への対策として、自治会の人員を増やすことが考えられますが、私は、観光客をマッチングしお祭りを体験することによって文化の継承にも貢献し、お祭りへの興味を高めることができると感じました。少子化の影響で、子供会の参加者も減少しています。私自身が子供の頃に比べると、その影響は顕著です。そこで、今年は宿泊した日本人や外国人を含む約10人に、一緒に山車を引いてもらいました。これにより、彼らはお祭りの体験を通じて青梅を好きになり、来年も参加したいという話も聞きました。</p> <p>私は事業者として、市民が直面する課題と観光客が求める体験を結びつける役割を果たすことができましたが、青梅大祭全体にこの取り組みを広げるには、さらなる協力が必要です。イベントや行事を体験したい観光客のニーズというのはある中で、地域の課題とどうマッチングさせるか、双方の受け皿となるような組織体があれば、個人として、事業者として、また市民として、組織や関連団体にそういった窓口を伝えて、協力を求めることで、事業を進めることができ</p>

	<p>ると思います。</p> <p>委員の意見を聞いて、私も同感で、事業者として、さらに良くすることができるポテンシャルが青梅にはあると感じています。</p>
会長	<p>はい、ありがとうございました。組織体は、今後基本計画および長期計画に基づいた戦略を展開し始めることとなります。この過程で、新たな組織体が必要になる可能性も考えられます。例えば、青森ねぶた祭りにおいて、私も隊列に参加し、青森県庁の隊列にも加わり、ハネトを共に行いました。JR 東日本さんはホテルの部屋を貸し切り、着付けや鈴の準備も行ってくれました。このような取り組みが増え、徐々にそうした流れが広がる可能性があると思います。あいさんがその先駆けを担われるのかもしれませんが。</p> <p>他にありますか。</p>
委員	<p>インバウンド対応の推進に関して、青梅を単体で考えるのではなく、奥多摩を含めた広域エリアとしての取り組みが重要になると思います。具体的には、青梅と奥多摩が一体となって、誘客戦略を展開することが、今後重要になります。特にインバウンド対策においては、青梅線沿線の連携が必要不可欠ではないでしょうか。</p>
委員	<p>青梅線は青梅と奥多摩を結んでおり、この二地域を別々に考えることは確かに不自然です。</p> <p>すでに青梅奥多摩もみじ協定として、秋の紅葉シーズンに、御嶽山から始まり、奥多摩、御岳溪谷、吉野梅郷を巡る観光誘客に取り組んでいます。この時期には、地域ごとに紅葉の見頃にタイムラグがあり、それを活用することできるから</p>

	<p>です。この取り組みを PR するために、青梅奥多摩もみじ協定で JR さんと協力しています。重要なのは、御岳や奥多摩だけでなく、新宿や東京駅などの主要駅に大きなポスターを掲示して、都内の人々に青梅の紅葉の魅力を伝えることができることです。これからも継続して取り組みを進めたいと考えています。</p> <p>特に 11 月の紅葉の時期は、観光事業者にとって非常に忙しい時期です。そのため、大掛かりなイベントを実施するのではなく、宣伝活動だけで十分な効果を期待できるものいいと思います。</p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>広域というキーワードが出ました。青梅だけ単体ということでもなく、奥多摩単体でもなく一緒にというような、そういった流れにおのずとようになっていくのではないかと思います。何か他にご意見ございますでしょうか。</p>
<p>委員</p>	<p>先程、委員が述べられたように、地域の課題に取り組む人を募り、その課題を表面化させることは、最近のアートプロジェクトで見られるアクションに似ています。私は音楽の分野に携わっていますので、その視点で考えますと、コンサートをただ開催するのではなく、一緒に音楽をつくるアクションが増えているように感じます。アートプロジェクトのアイデアを取り入れて新しい試みを行うこともできるのではないかと思います。</p> <p>また、地域ごとに様々なイベントがありますが、イベントを通じて、地域課題をアートプロジェクトで解決しようとする例があまり見当たりません。アーティストインレジデンスのようなプログラムも、青梅市内ではまだ見かけません。</p>

	これらの要素を取り入れた、新しいアプローチができればおもしろいかなと思いました。
会長	<p>今後、この提案の中にはそのような取り組みも含まれる可能性があると思います。他にご提案いただく時間がほとんど残されていませんが、大まかな概要は網羅できたと思います。もし何か追加のコメントがある場合、お聞かせいただけますでしょうか。</p> <p>(追加意見なし)</p> <p>本日はありがとうございました。</p>
事務局	<p>5 その他</p> <p>(次回日程 1月15日(月))</p>